

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100191		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家千歳 ラベンダー		
所在地	千歳市若草1丁目18-2		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100191&amp;SCD=320">http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100191&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 6 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、ホームが地域に根ざす事を目標として、その理念の共有・実践に向け取組んでいる。管理者は日頃から会議等で理念や方針・目標等を話し、毎朝申し送りして理念の読み合わせをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	気軽に挨拶を交わしたり、野菜を頂く等近所付き合いをし、触れ合いを大切にしている。地域の行事等にも参加し、地域住民との交流を深めている。管理者は自治会の集まりにも参加し、関係を深める努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりや催しに参加し認知症について話しをしたり、地域の方が集まる機会として、子供みこしの休憩所として場所を提供しており、それらの集まりの中から事業所として取組める事の開きにも努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催により、各関係者様方との話し合いも円滑に行われている。グループホーム全般の役割や取組みについての理解が深まりつつある。また、地域の方の意見を頂く事で、サービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携について、本部職員、管理者が中心となり、連携を図っている。事故が起きた際の、状況報告時などを利用して、ケアサービスの取り組みを積極的にやっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。言葉や対応による行動の制限、精神的圧迫も拘束に繋がると捉えている。また、身体拘束の研修などにも積極的に参加し、研修に行けなかった職員については、資料を配布するなどして、情報の共有をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部及び管理者より高齢者虐待の定義やその内容詳細について各会議で都度説明行っており、入居者が外泊等された後にも身体確認等行う事で、ホーム内外での虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、制度の内容等について内部研修及び外部研修で職員理解を深める努力をし、その内容周知にも努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を掛け各項目について説明しているが、契約前にも不安や疑問点を尋ね、対応している。入居申込み前には必ずホーム内見学案内も実施し、日常生活の様子やケアの内容についても説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の入居者様・家族様との関わりの中で意見や要望・不満等を表せる機会を作るようにしている。また、苦情・要望の所定書式、意見箱、相談窓口等の設置により受入体制を整え、迅速な対応・解決に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員意見については、毎週定期的に本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験年数や資格取得に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、日常業務内での取り組みや個々の成長過程等も確認し、意欲や能力を向上させられるよう個別指導教育も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修の受講推進を行っており、勤務上受講が出来なかった職員についても後日資料の配布等で、内容周知が成されている。また、本部職員による個別の助言指導等も随時行なわれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催する地域包括会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会等に積極的に参加し、同業者との交流が出来ており、ネットワークを広げ多くの情報を得る事で、サービスの質の向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談及び見学案内の際に不安な事や希望についても可能な限り聞取るよう努めており、本人様以外の親族の方にも情報提供依頼をし、本人様との関係が早期に身近なものと感じられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれている。また、入居後も些細と思われる出来事についても都度連絡する事で更なる安心感に繋げる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際に状況を見極め、今必要な支援が出来るよう努めている。本人様とご家族様の希望が一致しない時は職員も含めた話し合いを行い、支援の優先度についてもケアプランを活用し専門的なアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、裁縫、畑仕事等を教わったり、人生の大先輩として日々多くの事を学ぶ事で、共に支えあう関係を築いている。また、常に入居者様の気持ちに寄り添い、喜びや悲しみを共有できるような接し方に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各ご家庭の事情もあり全てが円満であるとは言えないが、まめに連絡を取り情報を共有するよう努めている。多様な行事の呼掛け等で本人様と関わり合える機会の提供にも努める事で、関係が深まったケースもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様にとっての馴染みの人や場所を把握し、連絡を取ったり、その場所に出掛けたりする機会を設けるよう努めている。その際の情報収集や実際に外出等行う場面ではご家族様の協力を得ながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士助け合い、思いやりを持って関わり合えるよう日頃から働きかけている。積極的に他者と関わらない方には交流の場を作り、皆が楽しく過ごせる様配慮し、温かく家庭的な雰囲気になるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居後もご家族様が遊びに来られたり、ボランティアに来て頂ける等の関係が築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりや観察、ご家族様からの情報収集等により一人一人の希望や意向、様々な事への反応等の把握に努めている。それを踏まえ、食事やレク・行事等の身近に出来る事に取り入れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や関係者からの情報収集・本人様・ご家族様からの聞き取り等によりこれまでの暮らしの把握に努め、ホームでも馴染みの暮らし方を出来る限り継続し、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の観察・インタビュー・申し送り等により、様々な面からの現状の把握に努めている。会議で個別のケアカンファレンスを行なう他、スタッフ間の連携を密にし、変化があればすぐに対応出来る様心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会、会議、日頃の関わり等により本人様、ご家族様、職員の意見を取り入れ、計画を作成している。状態の変化があった時にも随時意見を聞き計画を見直す事で、本人様の安定やご家族様の安心に繋がっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の生活の様子やケアの実践状況等を個別記録に記入し職員間で共有する事で、日々のケアや計画の見直しに活かしている。それにより状況に応じた必要なケアがよりスムーズに行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様及びご家族様の希望を聞き取り、可能な限り希望に沿ったサービス提供と支援を行うよう努めている。関わりを深め、希望や意向を引き出し、その時々生まれるニーズの変化に迅速に対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアとの交流や近隣学校との関わり、消防署による避難訓練等で関係が深まり、協力体制が築けてきている。開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、円滑な交流が行なわれるようになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の希望がある場合は希望の医療機関を、それ以外は協力医療機関を受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。医療機関からは適切な指示・助言をもらえるよう必要に応じて受診や状況報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、受診の際には、協力医療機関の看護師に介護職が日々ケアをしていて気付いた事や最近の変化等を伝え個々にアドバイスを受ける事で、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、入居者様の生活状況やケアについて情報提供をし、早期退院の為に話し合いや退院後の経過観察についてもアドバイスを受けている。入居者様が安心して治療を受け、早期退院し、ホームの生活にスムーズに戻るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて事前にご家族様及び本人様意向を確認する事に努め、事業所として出来る事を説明し、可能な限りの対応をしている。時として思いの相違が生じた場合についても、専門的な立場から助言等させて頂く事で円滑にご理解が得られている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習や避難訓練の実施、緊急時の対応マニュアルの整備により、全職員がその内容を熟知し対応している。また、日頃から起こりうる事故を想定して、それを未然に防ぐ為の対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施により災害対策について全職員がマニュアルを周知している。また、訓練内容についても都度状況を変え様々なケースを想定し実施している。今後は夜間を想定した訓練も実施していく。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の誇り、プライバシーを守り常に本人様の気持ちに配慮した対応をする様努めている。特に排泄の声掛けは近くでさりげなく行い、排泄に関する職員間の連絡も記録して伝える等の配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様個々の希望を出来るだけ表出して頂き自己決定の機会を増やせるよう働きかけ、日々生活に活かせる様努めている。また、認知度に合わせた情報提供により本人の気持ちを汲み取る工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースを大切にし、希望に添った過し方が出来る様心掛けています。共同生活上、ある程度ペースを作らせて頂く事はありますが、余暇時間等には個人のペースで希望を尊重するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んで頂く、外出時にお化粧をして頂く等し、お酒落をする気持ちを忘れずそれぞれの個性を表現して頂ける様支援している。理容・美容は本人様・ご家族様の希望に合わせ、利用の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の好みを把握し、献立に取り入れ食事作りの前や買い物前に希望を聞いている。買い物や準備、片付けにも出来るだけ参加して頂き、共に行う事で食事が楽しみなものになるよう働きかけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量・栄養バランスを考えた食事提供を行い、摂取状況を記録し状態に応じた支援をしている。食事や水分摂取に注意が必要な方については、主治医と連携し、アドバイスを受けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する方には、毎食後の義歯洗浄・歯磨き・うがいのケアを行い、自力で出来る方には声掛け・見守りをし、能力に応じて支援している。夜間はポリドント洗浄を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行なっている。おむつ使用者についても日中は極力おむつを外し、声掛け、誘導を行なっている。排泄状況の把握により、失敗やおむつの使用が減った方も多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表による排便状況の把握、その原因や影響の理解に努め、食事・運動の両面から働きかけ自然な排便を目指している。状況により下剤の調整を行なっている。それにより便秘の症状が改善されたケースも多い。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や順番は出来る限り希望を取り入れ、くつろいだ入浴が出来る様、曜日は決めず状況に応じて週2～3回の入浴を行なっている。拒否がある方には働きかけを工夫し気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の生活習慣を尊重し、その日の状況に応じて安眠へ繋げる支援をしている。また、一人一人の生活リズムや体調・精神状態に合わせ、日中も居室やソファで休んで頂く等個別の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容について全職員が把握し、服薬管理については法人で取り決めた基本事項に基づいて複数の職員で確認行い誤薬のないよう支援している。処方箋変更時には症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の生活歴や特技、好きな事、能力等を把握し、それを活かした役割、楽しみ事、活躍できる場面の提供をするよう努めている。そのような支援により、入居者様の生き生きとした様子が見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から入居者様の希望を聞いたり、こちらから働きかけたりして日常的に買い物や散歩、食事等に出掛ける機会を作るようにしている。ご家族様や地域ボランティアの方も含めた外食等も実施している。冬期間も安全に配慮し出来るだけ外出支援を行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様による金銭管理は難しい方が多いが、定期的に買い物に出かける機会を作り、希望に応じてお金を使える様支援している。自己管理希望の方については、ご家族様と相談の上、所持・使用して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援は能力に応じた対応、プライバシーの配慮に努め支援している。日常的に電話や手紙のやり取りをし、ご家族様や友人との関わりを継続する事で、安心感・満足感・安定に繋がっている方もいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔保持に努め、装飾等は適度に生活感・季節感を取り入れ、明るく家庭的な雰囲気になる様努めている。照明・音の大きさ等も快適なものにする様心掛け、空間作りにおいては常に生活の主体である入居者様の目線・感じ方を大切にしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く・明るく、入居者様数名でも、一人でもくつろげる様に複数のソファやテーブルを設置している。入居者様の過ごし方や他者との関係等の把握に努め、状況に応じて模様替えや環境改善をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用していた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで頂き、本人様・ご家族様と相談しながら個性を活かした居心地良い居室となるよう工夫をしている。家具等の配置も本人様の使い易さを尊重している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には必要箇所に手摺り等を設置し、安全な環境作りに努めている。入居者様個々の対応については設備を使用するより職員対応によるものが多いが、設備・対応の両面からの自立支援を心掛けている。			